

社寺名 伊佐爾波神社 (松山市桜谷町173)

奉納者 いざきためじろう よしつぐ
伊崎為次郎 (義継)

いしざきりょうぞう よしゆき
石崎 良蔵 (義之)

奉納年 万延2年 (1861年)

解説 《愛媛県指定有形民俗文化財》

算額の前文、問題の図が不鮮明で題意が正確に読み取れないが、釣台 (図形の重心を求める) に関する問題である。

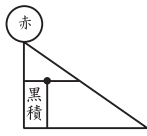
伊崎為次郎 (義継) は、師伊崎庄右衛門の次男である。

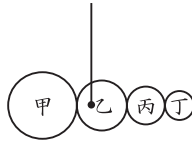
父親の伊崎庄右衛門は、文化13年 (1816) 温泉郡新浜村 (現梅津寺) の農家の生まれ。和算は、初め松原伊兵衛 (塩田民之丞の門人) に学び、天保5年 (1834) 筑前 (福岡県) で、暦学、測量術、航海術を学んだ。

万延2年 (1861) 松山藩の弘齊丸に乗り航海測量に従事し、その後、砲台の築造や松前川口より波止浜に至る沿岸の測量、和気、温泉、伊予諸郡の地図を作成した。

明治3年 (1870) 明教館助教となり、長年の功績が認められ、明治5年 (1872) 世襲士族に編入された。明治12年 (1879) 愛媛県職員に任用され、明治25年 (1892) に没するまで広範囲に渡り活躍した和算家である。

(『愛媛県誌稿上巻』大正6年 (1917))





夫點竄釣臺は近年算家流行にして傍書而萬法の起源を探索するに動之究理變化過乘之適等不精運用以所を明にして亦日月人星の天食凌□に至迄詳しく實に良法とや況

萬
延
二
年
酉
春

關流八傳測算道家元
伊崎庄右衛門義昌門人
二男伊崎為次郎義継誌

新濱 石崎良蔵義之謹印

黒股乗段術千釣今 乙和丁和纂答千中今
積左名赤地名曰赤之有 和減和乘丁術問心有
術左右加赤鈎積若只鈎得地除人丙極內甲乙丙
合除天積乘若圓欲合極及甲乙丙
問地因三股千云股累徑加纂列人名乙何
三鈎段名加加積若圓欲合極及甲乙丙
段右名加加積若圓欲合極及甲乙丙
相列鈎赤問干股正問及甲乙丙
乘天四積如股正問及甲乙丙
得乘段二何若平 甲乙丙

問題文

(右) 図のように、甲、乙、丙、丁の4個の円がある。これを水平につるすときの支点 (重心) を求めて、4円の直径の長さがそれぞれ与えられたとき、支点 (重心) から甲円の中心までの距離を求めよ。

(左) 図のように、直角三角形と赤円がある。これを水平につるすときの支点 (重心・黒点) を求めて、直角三角形の直角をはさむ2辺の長さと赤円の面積が与えられたとき、黒の長方形 (黒積) の面積を求めよ。